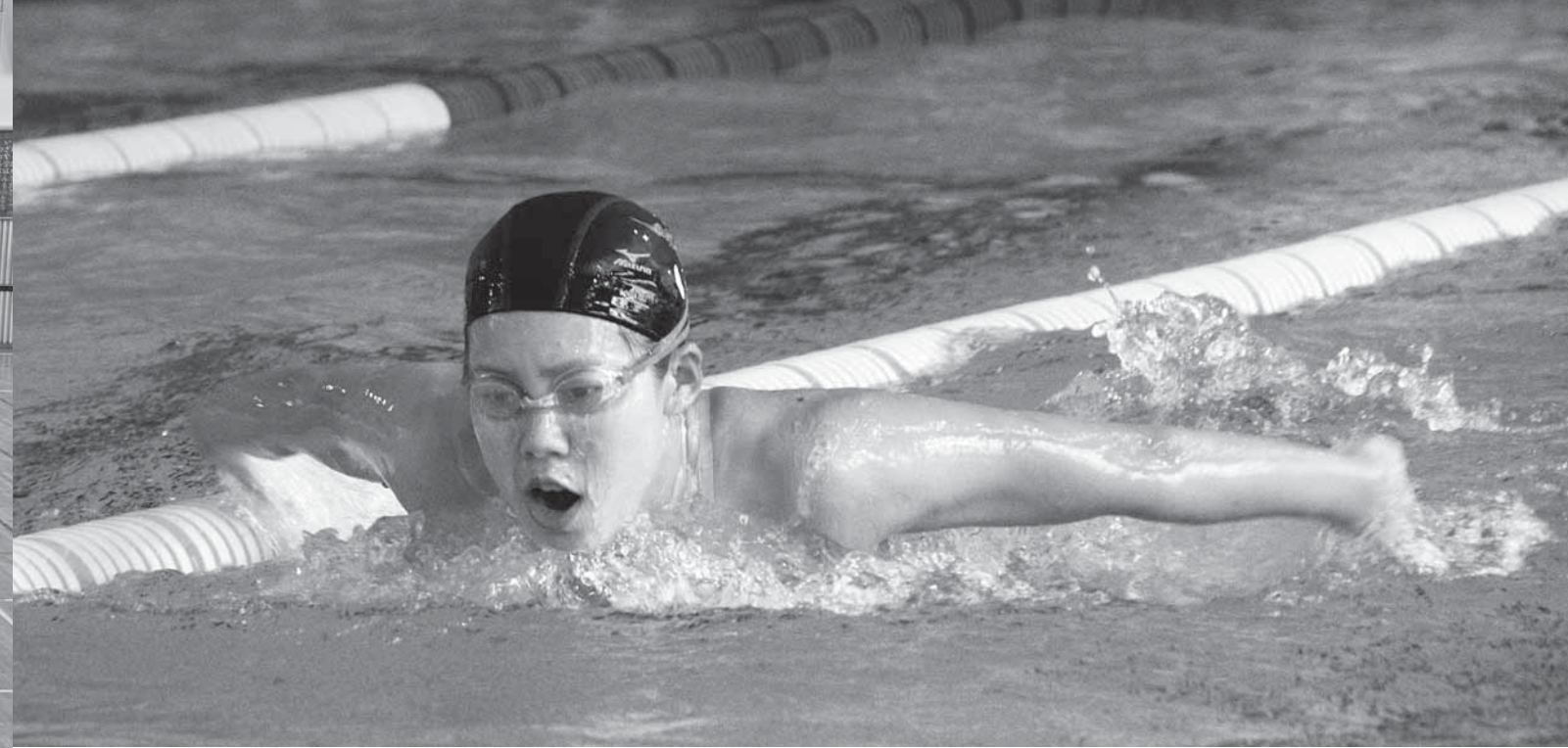


1_感謝の気持ちを込めて「おひさまありがとう」のメッセージを掲げた児童たち 2_関係者でテープカット 3_校舎屋上に設置された太陽光パネルの説明を受ける児童 4_仙台ココ・コーラボトリングの鈴木恭社長に感謝の言葉を述べる黒須陽佳さん 5_櫻井竜人くんが鈴木社長に御礼のこけしを贈呈



スウィン大教スイミングスクール所属のロンドンオリンピック200mバタフライ日本代表の星奈津美さんが4月30日から5月6日までの7日間、スパッシュランドしろいしで合宿を行いました。貴重な時間を割いて、「水泳の魅力」や「夢」について話を伺うことができました。

星 奈津美さん

ほしなつみ 1990年8月21日生まれ。埼玉県出身。早稲田大3年。スウィン大教スイミングスクール所属。ジュニア時代からバタフライ、特に200mで実績を残し、高校1年時の200mバタフライで全国大会初優勝。高校2年(2008年)北京オリンピック代表を射止める。2011年7月に行われた上海世界選手権では、日本新記録で4位入賞を果たす。2012年4月に行われたロンドンオリンピック代表選手選考会で自身の日本記録を1秒22更新する2分4秒69をマークし、ロンドンオリンピック代表となる(これは昨年の世界選手権の優勝タイムを上回る)。4月8日現在、今期世界ランク1位。164ポンド。53キログラム。



ロンドンオリンピック日本代表 星 奈津美さん スパッシュランドしろいしで合宿 驚愕のタイムで決戦の地へ！

きたすバセドウ病を発症しました。心臓に負担がかかるため泳げない時期もありました。今は定期健診と薬で甲状腺ホルモンの数値は安定していますが、このことで人生観がすべてよい方になり、水泳ができる喜びを感じています。

「夢」をつかむために
水泳は1歳半から始めました。選手コースに入ったのは小学1年生。3年生からバタフライ一筋です。

水泳の魅力は、トレーニングがどんなにつらくても、それに耐えて、乗り越えて、結果に結びついたとき。レースは一瞬ですが、結果に結びついたときは、トレーニングにかけてきた時間以上の喜びを感じます。それが一番の魅力ですね。それが16歳のときに甲状腺に異常を

北京オリンピックのときは、オリンピックに出場できて満足というか、目標を持っていました。今振り返ると、オリンピックで泳いだだけ。結果に結びつかず沈んだ時期もありましたが、2010年、原田良勝コーチに師事して、そこから私自身が変わりました。練習方法などを自分で考えて、コーチと話し合って決めることにしました。自分がやりたいと思ってもやっていると苦しくてもや

子どもたちへ

水泳に限ったことではありませんが、好きなことを楽しんで続けることが大切だと思います。時には、つらい思いや悔しい思いをすることもありますが、「次こそ」と乗り越えることで、見えてくるものがきっとあるはずですよ。
継続は力なり！

復興支援と子どもたちの環境教育のために 「ココカ・コーラ復興支援基金」エコ支援事業

白石第一小学校に太陽光発電設備を設置 4月24日、太陽光発電システム竣工式

日本ココカ・コーラ株式会社と公益財団法人ココカ・コーラ教育・環境財団が、東日本震災で被災した岩手、宮城、福島、3県の公立小中学校への復興支援と、次世代を担う子どもたちへクリーンエネルギーを通じた環境教育を進めようと、文部科学省の協力で設置した太陽光発電システムが白石第一小学校に完成し、4月24日、竣工式が行われた。

完成した太陽光発電システムは、校舎屋上に48枚の太陽光パネルと蓄電池などが設けられ、発電量は最大10キロワット。一般住宅3軒分の電力を発電し、校舎1階正面玄関廊下には、「本日の発電量」「蓄電量」「今まで削減できた二酸化炭素量」「日射の強さ」「気温」などが児童でも一目で分かるパネルモニターが設けられた。災害時など停電が起きても校長室や職員室、事務室、保健室などの照明が確保される。

事業費は2,835万円で、公益財団法人ココカ・コーラ教育・環境財団の復興支援資金から全額助成を受けた。

竣工式で仙台ココカ・コーラボトリングの鈴木恭代表取締役社長が、「自然の大切さを学び、まわりの人たちの思いやりに成長していくことを期待します」とあいさつ。児童を代表して6年の黒須陽佳さんが、「震災の時は電気がつかず大変な思いをしました。ソーラーパネルがあれば安心。環境学習などに活用していきたいと思えます」とお礼の言葉を述べた。

竹田友一校長が、「『太陽の力を発見』をテーマに、太陽光発電が環境問題にどのように役に立つのかを学習するとともに、学習したことを生かし、日常生活に目を向け、エネルギーについて考えていきましょう」と話し、児童全員で「ありがとうございました」と感謝の気持ちを伝えた。

